

序論

第一次世界大戦後、1939年ドイツがポーランドへ侵入し、第二次世界大戦が始まった。第二次世界大戦は世界のほとんどの国を巻き込み、世界的な軍事衝突に発展した。この大戦で70万人以上の人々が犠牲になり史上最大の戦争と言われ、人類史上最悪の紛争となった。国内外にいる日本人にも悲劇をもたらした。日本は1945年8月14日米国に降伏した。この大戦で自国と民族の誇りを守るため、そして他国に勝利するため、多くの人が命を捧げたが、全ての人にとって絶えられず逃れられないものとなった。

本論

本研究では小説『二十四の瞳』の登場人物を通して、第二次世界大戦が日本人に与えた影響について分析していく。

小説『二十四の瞳』の主人公、大石久子は児童から大石先生と呼ばれていた。彼女は小豆島という小さい島で小学校の教師をしていた。洋服を着、自転車に乗っていたため、彼女は冬眠にモダンガールと呼ばれていた。大石先生はとても優しく、親切で、前向きな人である。生徒達はその彼女の性格が好きだったが、冬眠達はそうは思わなかった。

大石先生は結婚したあと、三人の子どもをもうけた。それぞれの名前を長男は大吉、次男は並木、末子は八津と言う。大石先生は家族と一緒に一生幸せに暮らしていたはずだったが、戦争が始まった。夫は兵士として、

日本政府に呼ばれた。生きて帰れる保障はなかったが、彼は行かなければならなかった。三人の息子はまだ子どもで、行かずにすんだ。

夫だけではなく、五人の生徒達も行かざるおえなかった。夫と違って、生徒達は喜んで戦争に参加した。国を守ることがとてもすごい事だと思っていたのであろう。生徒達みんなが戦争が好きなのではない。先生と生徒の絆は強く、ほとんどの生徒達は先生と同じ意見であった。戦争に行かなかった生徒達は、戦争の恐ろしさを知るようになった。彼女たちは心の奥で「戦争は嫌だ！」と悲しみ叫んでいる。しかし、仕方がなく、戦争に行かなければならなかった生徒達もいた。戦争以外の選択は彼らにはなく、運命に従うしかなかった。学校を楽しんでいるはずだった彼らの明るい青春は影を落とし、家族と一緒に暮らせる時間さえも失った。

大石先生、彼女の夫、それに三人の生徒は、戦争や兵隊を大変憎んでいる。それが原因で、冬眠達はより強く大石先生を憎んでいる。彼らにとって、戦争は誇り高いもので、大石先生の考えが理解できなかった。

以下に登場人物と戦争との関係、また戦争に対する考え方について明らかにしていく。

1. 大石先生は、戦争のような残虐なやり方では世界に平和は訪れないと考え、戦争を憎んでいる。彼女は、教育こそが未来に繋がると信じ、戦争に反対する姿勢を示す。彼女は反戦思想を児童達に説いたため、校長先生から強く注意される。そして、共

産党の一員ではないかと疑われてしまう。大石先生は、自分の純粋な考えがみんなに伝わらず大変悲しむ。

2. 大石先生は戦争で家族と生徒達を失った。夫は戦争で死んだ。

夫の遺体は戻って来なかった。大石先生の長男も戦死した。大石先生の母は高齢のため亡くなり、子どもの一人は毒が含まれていた食べ物を食べ死んだ。三人の生徒も戦死した。治らない病気を抱え病死した児童もいた。

3. 生徒達の中にも、戦争で家族を失った者もいた。戦争で目が不自由になった教え子も精神的ショックを受けた。それが原因で、彼はもう生きる意味を失い、死にたいと思う。そして、周りの人々に対しても自信が持てなくなる。貧しさから、生き残るためにやむを得ず、レストランで働く教え子もいた。

結論

本研究の結果、第二次世界大戦は日本人に大きな影響を与えたことが示された。教育、経済、社会の側面においてである。

教育の現場では、学校を仕方がなくやめる生徒が多くいた。徴兵制により若者を強制的に戦地に送った。

経済面では、生活が苦しくなり、学校をやめていく生徒が多く出た。働き過ぎで病気になり学校へ行けなくなる生徒もいた。その病気が原因で、学校に行くどころか、起きることすらできなくなった。

社会的には、彼らは家族、友達、愛する人たちを失った。先生と生徒の関係は涙なしでは語るができない。戦争という残虐な行為によって多くのものが奪われてしまった。生徒達自身も徴兵制により召集させられた。子どもたちは普通の人生さえ失った。それにより、多くの若者達にダメージを与えたであろう。つらい過去の経験はトラウマになる。そのトラウマは心も体もむしばみ、やがて後遺症となり、精神的に影響を与えることになったであろうと考える。

DAFTAR ISI

Kata Pengantar	i
Daftar Isi	iv
BAB I PENDAHULUAN	1
1.1 Latar Belakang Masalah	1
1.2 Pembatasan Masalah	3
1.3 Tujuan Penelitian	4
1.4 Metode Penelitian	4
1.5 Organisasi Penulisan	6
BAB II KONDISI SOSIAL MASYARAKAT PADA MASA PERANG DUNIA II	8
2.1 Perang Dunia II	8
2.1.1 Latar Belakang terjadinya Perang Dunia II	9
2.1.2 Dampak Perang Dunia II bagi masyarakat Jepang	15
2.2 Kebijakan Politik	15
2.2.1 Militer	17
2.2.2 Ekonomi	18
2.2.3 Pendidikan	21

BAB III	KONDISI SOSIAL MASYARAKAT JEPANG PADA MASA PERANG DUNIA II SEBAGAI DAMPAK KEBIJAKAN POLITIK YANG TERCERMIN DALAM NOVEL <i>NIJYUUSHI NO HITOMI</i> (二十四の瞳)	22
3.1	Perang di Mata <i>Ooishi Sensei</i> (大石先生)	24
3.1.1	Kehilangan keluarga bagi <i>Ooishi Sensei</i> (大石先生)	26
3.1.2	Kehilangan Salah Satu murid	30
3.1.3	Kematian di usia dini	31
3.2	Dampak Bagi Murid-Murid	34
3.2.1	Pengaruh Psikologis bagi murid-muridnya	34
3.2.2	Murid-murid yang putus sekolah	37
3.2.3	Konsentrasi mengajar	41
BAB IV	KESIMPULAN	45
	Daftar Pustaka	47
	Lampiran	vi
	Sinopsis	x
	Riwayat Hidup	xiii